編集後記：普段いつでも気象に絡めた生活を送っているわけではないが，たまの遊びの中で，気象現象を考える経験もある．先日，越谷市のフライステーションジャパンという施設に行った．ここは，巨大なウィンドトンネルからの最大時速360km（秒速100m！）の風に乗って，約1分間の浮遊体験を味わえる施設である．浮遊は一人ずつで予約制のため，コロナ禍でも安心である．

体験内容はというと，まず専用のウェアに着替え，予約時間まで心の準備．自動扉を通過して風が吹き始めるトンネル入口に立つ．次に両腕を挙げてトンネル内のインストラクターにもたれ掛かる．するとネット上のインストラクターは直立で浮かない中，支えで横になる自分だけが風で徐々に浮かび上がってくるのである．姿勢が安定したら，インストラクターは手を離すので，そこから1分間自由に浮くことが出来る．ここで緊張して姿勢が縮こまるとゆっくり下降し，逆に足をまっすぐ伸ばすとすぐに2～3mほど上昇する．姿勢が偏ると端まで飛ばされるなど，1回ではうまくいかない．2回連続で申し込めば，オプションでインストラクターとのアクロバティックなタンデム体験が出来る．音楽とともに10mの乱高下，旋回と貴重な体験ができる．最後にインストラクターは，膝の曲げ伸ばしで抵抗をうまく調整し，それまでの何倍もの速度の上下運動や宙返りも見せてくれる．この施設は，本来，浮遊体験そのものを楽しむアトラクション，もしくはスカイダイビングの練習の場になるのかもしれない．

だが，マニアックな気象屋には，違ったものにも映った．学生の頃，シリンジ（注射器のようなもの）片手に直径約20cmの風洞に小さな水滴を浮かべ，落下する水滴の形状をみたものだった．水滴の姿勢は安定させることが難しく，すぐタンブリングして，風洞外に弾け飛んでしまう．その時の水滴と自分を重ねることで，雨滴の気分が味わえた．あのとき自分（水滴）が「ほんのわずかに」膝を曲げたり伸ばしたり（「ほんのわずかに」縦横に変形）したから上下して外に弾け飛んだのだな，と微妙な変化を感覚的に理解することができた．そして「自分が3ミリの雨粒だったら，最大落下速度20m/sもイケる気がする！」とアドレナリンの影響もあってか，おかしな感想がでた．ただし，1回1分の雨粒体験に5000円．何度も行けない点でも貴重な体験となりました．

（南雲信宏）